

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第81回北九州小児神経懇話会（第564回合同例会） **中止**

日時：2020年3月25日（水）19:00～20:30
場所：アートホテル小倉ニュータガワ
演題：「てんかん発作のない自然終息性焦点性
てんかん症候群に伴うてんかん脳症への対応」
演者：産業医科大学エコチル調査サブユニットセンター
副センター長・特任教授 下野 昌幸 先生
特別講演：「小児良性てんかんの治療（仮）」
演者：大阪大学大学院連合小児発達学研究所
准教授 下野 九理子 先生

第565回北九州地区小児科医会4月例会

日時：2020年4月16日（木）19:30～20:30
場所：小倉医師会館 4階
演題：「周産期から始められるトラウマ、解離、虐待予防」
演者：福岡新水巻病院
小児科産婦人科統括部長 白川 嘉継 先生

産業医科大学カンファランス・セミナー

産業医科大学小児科セミナー

日時：4月23日（木）18時
場所：産業医科大学大学2号館2208教室
演題名：予防接種制度およびワクチン対象疾患の最新情報
演者：保科 隆之

※4月の産業医科大学小児科クリニカルカンファレンスは
お休みです。

また、現在の新型コロナウイルス騒動のために
カンファレンスが中止となる可能性もあります。

第10回八幡地区病院小児科合同カンファレンス **中止**

※今回は節目の会であり、楠原教授にご講演いただくこと
になりました。

日時：2020年3月9日（月）19:00～
場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室
演題：不明熱へのアプローチ
演者：産業医科大学小児科教授 楠原 浩一 先生

産業医科大学小児科セミナー **中止**

日時：2020年3月5日（木）19:00～
場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室
演題：先天性心疾患と在宅呼吸管理の役割と展望
演者：JCHO九州病院小児科 宗内 淳 先生

その他講演会などのご案内

第429回小倉小児科医会臨床懇話会 **中止**

日時：2020年3月24日（火）19:00～
場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター
演題：「～令和を迎え、災害医療を改めて考える～」
演者：上曾根病院 内科 赤松 稔 先生

北九州市医師会学校医研修会 **中止**

日時：2020年3月17日（火）19:00～
場所：市立商工貿易会館 2階 「多目的ホール」
演題：「最近のアレルギー医療の動向」
演者：国立病院機構福岡病院 名誉院長 西間 三馨 先生

令和元年度第2回乳幼児健診登録医療機関研修会 **中止**

日時：2020年3月23日（月）19:00～
場所：市立商工貿易会館 2階 「多目的ホール」
演題：「社会環境に応じた育児の必要性」
演者：産業医科大学エコチル調査サブユニットセンター
副センター長・特任教授 下野 昌幸 先生

令和元年度北九州市医師会予防接種研修会 **中止**

日時：2020年3月24日（火）19:00～
場所：市立商工貿易会館 2階 「多目的ホール」
演題：「予防接種最新情報2020年～
ロタウイルスワクチンやHPVワクチンを中心に～」
演者：福岡市立心身障がい福祉センター
センター長 宮崎 千明先生

第430回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2020年4月23日（火）19:00～
場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター
演題1 「確定診断に苦慮した先天性胆管拡張症の2例」
小倉医療センター 小児外科 生野 久美子 先生
演題2 「乳児のUrethrovaginal refluxの3例」
小倉医療センター 小児外科 生野 猛 先生

保険診療メモ (202002)

傷病名などに関して

傷病名に関する留意点をいくつか列記いたします。

1. ○○欠乏症に関する病名

ビタミンB1欠乏症、ビタミンB2欠乏症、ビタミンB12欠乏症および葉酸欠乏症の病名で、これらの定量検査が一度に外来診療で行われていることがあります。貧血、浮腫、口内炎、神経症状など、各欠乏症による臨床診断（脚気、亜急性連合性脊髄変性症など）から各ビタミン欠乏症を疑って診断をすすめられるほうが丁寧かと存じます。緊急にこれらを一度に検査することが必要な状況であれば、できるかぎり詳記でご説明下さいますようお願いいたします。

2. 染色体検査 (G-banding)

末梢血検体を用いて染色体検査を行う場合は、何らかの症候から先天異常を疑って行うのが丁寧です。「染色体異常症疑い」のみではなく、できるだけこれを疑う具体的病名を記載くださいますようお願いいたします。

3. 溶連菌感染症

溶連菌感染症（疑いでも確定でも）の病名だけで、一般小児科外来の初日にASOとASKを同時に検査する意義は、極めて低いと考えられます。しかし、ASOとASKの測定はとくに皮膚感染からのものでは有用な場合もあります。

ASO、ASKに関する論文は1950-70年代の論文がほとんどで特に新しいものはありません。抗体価測定はASOが主流です。歴史的には、ASOは溶血阻止法（今はラテックス法）で測定するのが煩雑で、急性リウマチ熱での感度が60-80%程度であったことから、補足的な他の抗体検査が求められるようになり、日本で開発されたASKを測るようになった経緯があるようです。ASOとASKの同時測定の目的は感度と特異度を上げるため、小児の後天性心臓病として川崎病より急性リウマチ熱が注目されていた時代には有用であったかと思えます。

ASOは今も世界標準ですが、抗原Streptolysin Oを産生しない菌株の存在、皮膚感染では上がりにくいこと、抗菌薬治療で低下すること、などから、ASO陰性の場合には他の検査(ASKなど)を行うよう推奨されています。溶連菌感染症の血清型の疫学に大きな変化はありません。劇症溶連菌感染症の診断は、培養あるいは抗原検査で行い宿主側の免疫能よりむしろ菌株による病原性のメカニズムに注意が必要です。リウマチ熱、急性糸球体腎炎、PANDASでは先行する溶連菌感染の診断を急ぐ場合があるかもしれません。このような理由から、皮膚感染による溶連菌感染症の診断にASOとASKが有用になる場合があります。

ASO陽性の基準値はありますが、保菌者でも高値のことがあります、議論のあるところです。

ASOは定量ですが、ASKは希釈法のため、ペアの血清を用いた判定が比較的容易に行えるメリットがあります。したがって、ASOが陽性だった場合に、残血清を用いてASKを測定し、遠隔期にASKを再検するという方法は先行する溶連菌感染症の診断に有用と考えられます。

「ASOが陰性ならASKを測る」意義は上記のような疾患名の適応になると思われれます。ただ、外注検査で、結果が出た後から追いかけて追加検査を行うと時間がかかり過ぎるデメリットがあるのでその場合は同時測定でもよいと思います。なお、PANDASの場合は、溶連菌感染症の遠隔期に発症するため、抗体価による診断は困難なことが多いようです。

(福岡県小児科審査員連絡会)

役員会報告（3月5日：木曜日）

協議事項・報告事項

会員の異動：秋武邦子先生が令和2年3月3日逝去(享年88歳)されました。謹んでお悔やみを申し上げます。

1) 役員会各委員会分担について

委員会分担(案)が提出され最終決定を次回役員会とする予定です。

2) 福岡県小児科医会 会報誌のテーマ

福岡県小児科医会会報誌のテーマについて各委員から案を出していただきました。新委員の宮川隆之先生が出席され協議されます。(4月4日の予定)

3) 後援の依頼

特定非営利活動法人 チャイルドライン北九州から7月12日に「ムーブフェスタ2020市民企画事業」の一環で北九州主催の講演会について、当会が後援をすることを承認いたしました。

日時：2020年7月12日(日)13:00~16:00(予定)

演題：「今どきの子どもたち」

講師：下関市小児科医会会長 金原洋治先生

4) 当会への入会に関して

当会の入会申込書の内容を検討し新しいものを作成することとしています。

委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継

2月は10名ほどの参加者でした。

3月は小児神経懇話会との合同例会の予定でしたが、コロナウイルスのため、中止となっています。

4月16日：『周産期から始められるトラウマ、解離、虐待予防』白川嘉継先生

5月21日『子どものこころの外来での面接法(仮)』

広島県松田病院 松田文雄先生

6月25日：西順一郎先生 鹿児島大学微生物学教授

7月：産医大例会

2. 小児保健研究会推進委員会報告：梶原 康巨

北九州市小児保健研究会令和元年度第2回理事会が、令和2年2月19日に北九州市市庁舎で開かれ、以下のことが決定しましたので、ご報告いたします。

令和2年度

(1) 調査研究事業

①北九州市の3歳児健診における齲歯の有病率と受動喫煙との関連性の検討

提案者：産業医科大学 小児科 荒木 俊介 先生

②就学後を見通した就学前からの発達障害児支援の在り方の研究

提案者：国立病院機構 小倉医療センター

小児科 渡辺恭子 先生

(2) 講演会事業

「子どもの健康に影響を与える社会格差」(仮題)

提案者：産業医科大学 小児科 荒木 俊介 先生